

仙台市のエイズ・性感染症の動向（令和 5 年 12 月末現在）

1. HIV・エイズ発生動向

（1）HIV 感染者とエイズ患者報告数 年次推移の比較

○ 全国の状況（R5 年は速報値）

・HIV 感染者およびエイズ患者の年間新規報告数は近年減少傾向となっており、令和 4 年の HIV 感染者数は 640 件、エイズ患者数は 253 件で、HIV 感染者数とエイズ患者数を合わせた新規報告数は 893 件であり、いずれも前年より減少した。

・令和 5 年の HIV 感染者数とエイズ患者数を合わせた新規報告数（速報値）は 943 件であり、7 年ぶりに増加に転じた。【図 1】

図 1 全国の HIV 感染者とエイズ患者報告数の年次推移 【昭和 60 年～令和 5 年】※R5 年は速報値

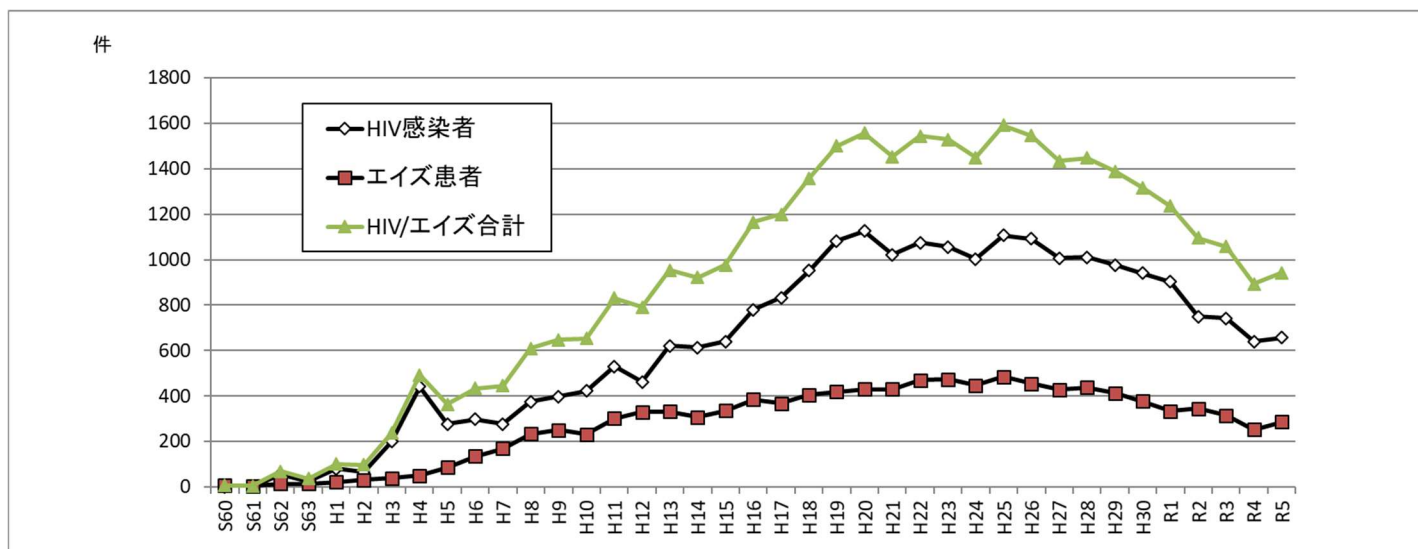
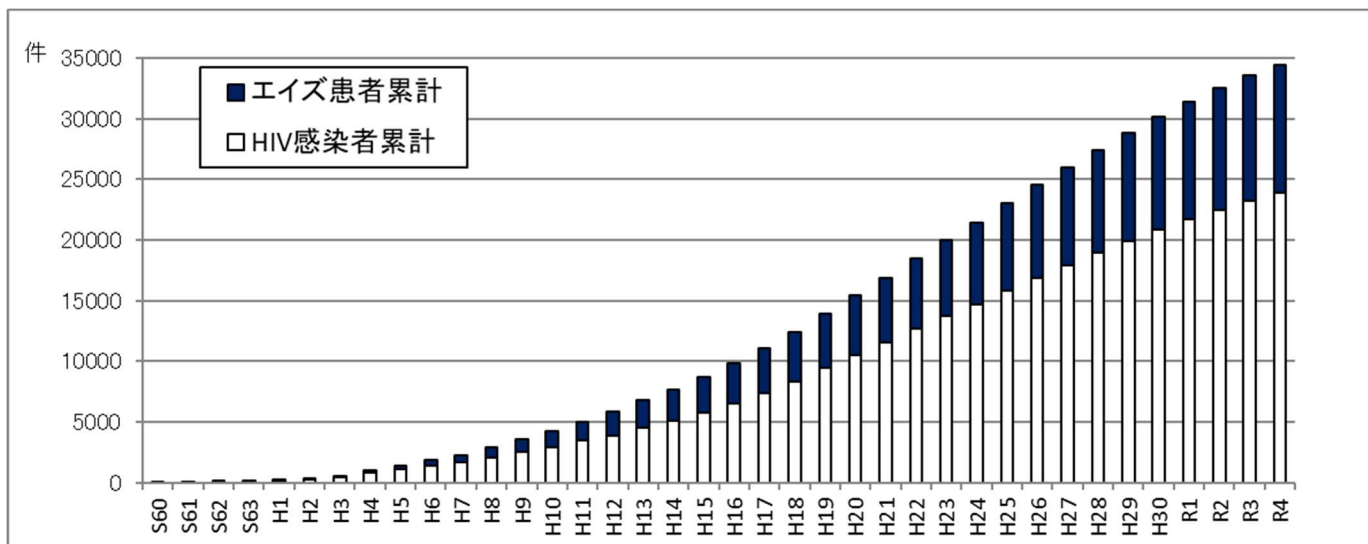


図 2 全国の HIV 感染者とエイズ患者の累積報告数【昭和 60 年～令和 4 年】



○ 仙台市の状況（R5 年は速報値）

- ・新規報告数は令和 4 年（確定値）が HIV 感染者 6 件、エイズ患者 2 件の計 8 件、令和 5 年（速報値）が HIV 感染者 8 件、エイズ患者 3 件の計 11 件であった。【図 3】

図 3 仙台市の HIV 感染者とエイズ患者報告数の年次推移【昭和 63 年～令和 5 年 ※R5 年は速報値】

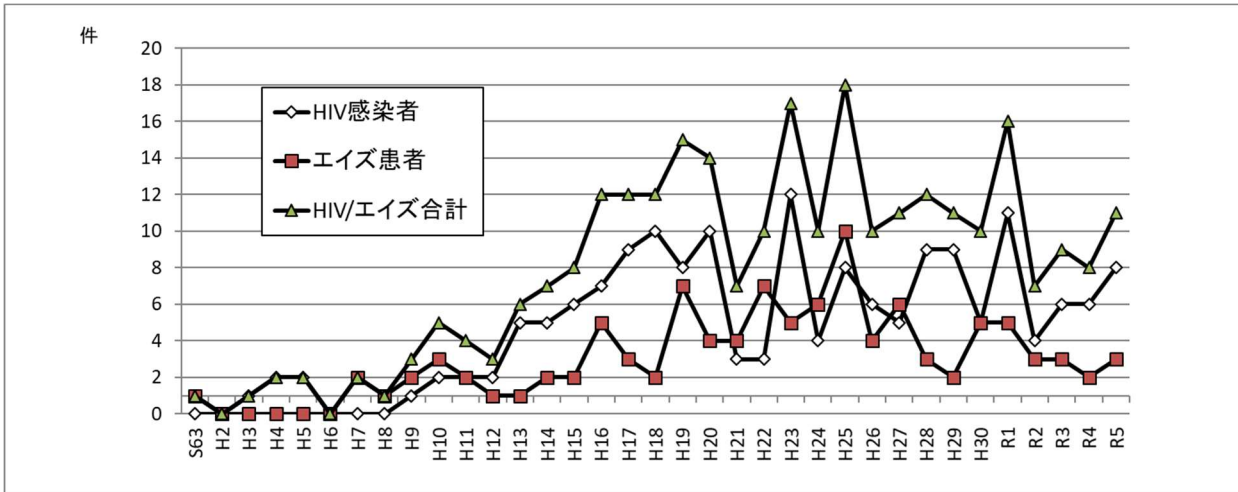
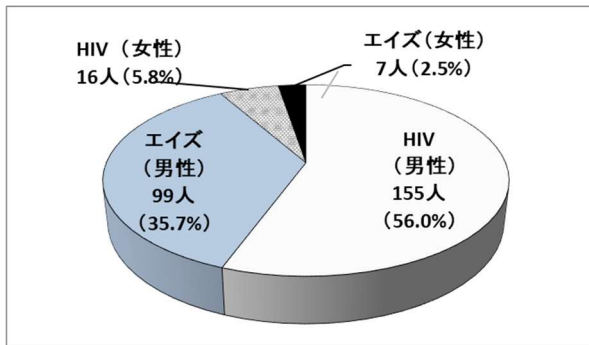


図 4 仙台市の HIV 感染者とエイズ患者の累積報告数 性別割合【昭和 63 年～令和 5 年 ※R5 年は速報値】



【累積報告数（S63 年～R5 年）】

HIV 感染者 171 件
エイズ患者 106 件

(2) いきなりエイズ率 年次推移の比較

※「いきなりエイズ率」とは、HIV 感染を認知せずにエイズを発症した事例の割合を言う。

- ・令和 4 年の全国の「いきなりエイズ率」は 28.3% で前年より減少した。【図 5】
- ・仙台市の「いきなりエイズ率」は年によってばらつきがあり、令和 4 年は 25.0% であった。【図 5】
- ・過去 5 年の仙台市の累積報告は、年齢が上がるほどエイズ患者の報告が多くなり、50 代以上では半数以上がエイズ患者として報告されている。【図 6】

図 5 全国及び仙台市の「いきなりエイズ率」の年次推移【平成 22 年～令和 5 年 ※R5 年は速報値】

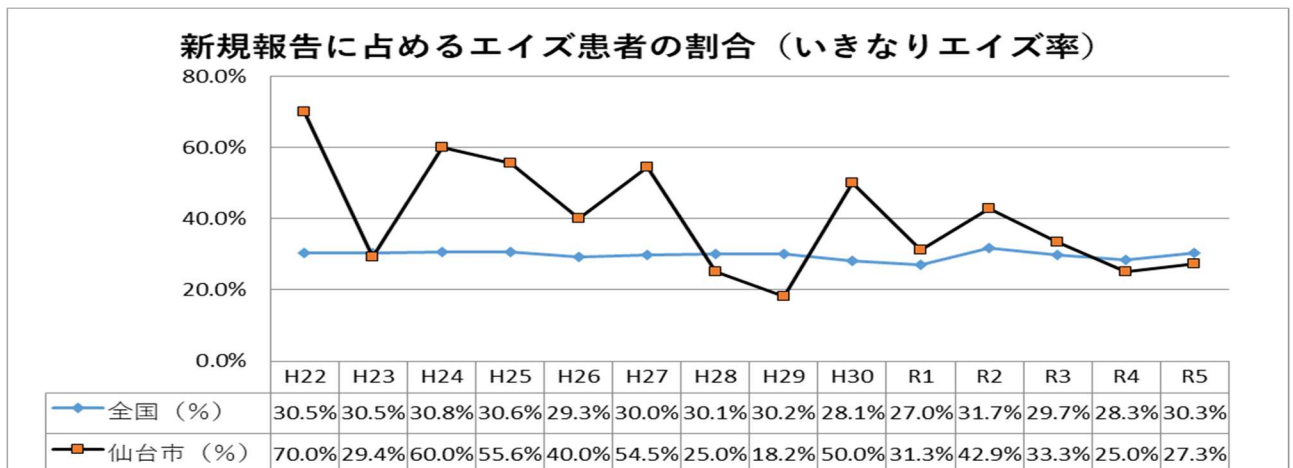
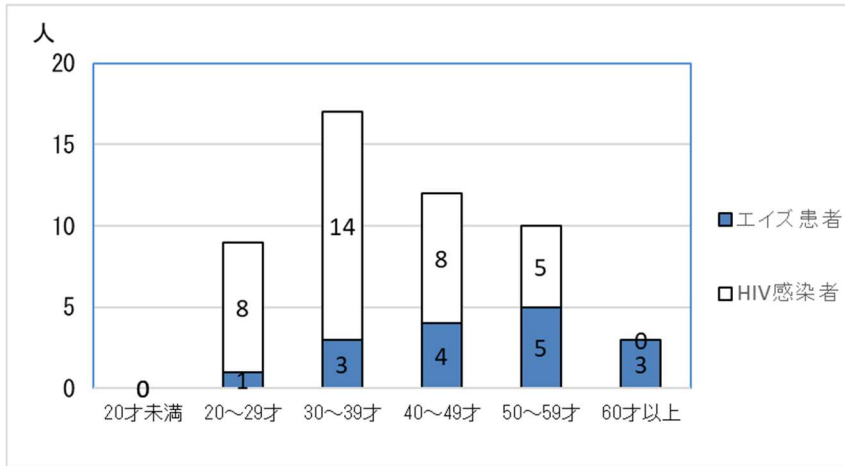


図6 仙台市のHIV感染者・エイズ患者年齢別割合【令和元年～令和5年累計 ※R5年は速報値】



(3) 仙台市のHIV感染者とエイズ患者の推定感染原因

- 過去5年の累積報告における推定感染原因【図7】
 - ・推定感染原因が判明している方は86.3%で、すべて性的接触による感染であった。
 - ・同性間性的接触が大部分を占め58.8%であった。異性間性的接触・同性間性的接触の両方の可能性がある方が2%だった。
- 年次推移報告【図8】
 - ・令和4年は異性間性的接触の件数が62.5%と最多であったが、令和5年（速報値）では、令和元年～令和3年までと同様に同性間性的接触が63.6%と最多であった。

図7 仙台市の推定感染原因別感染者・患者報告割合【令和元年～令和5年累計 ※R5年は速報値】

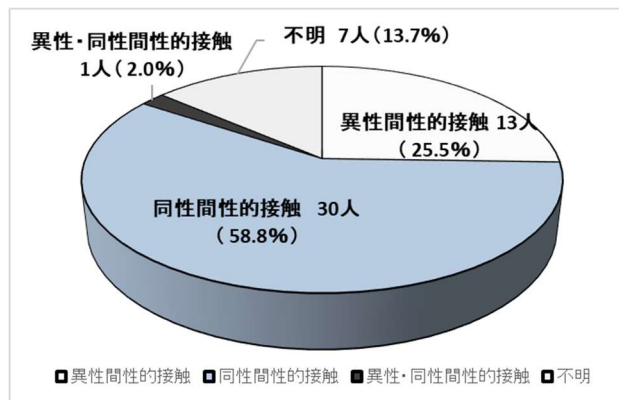
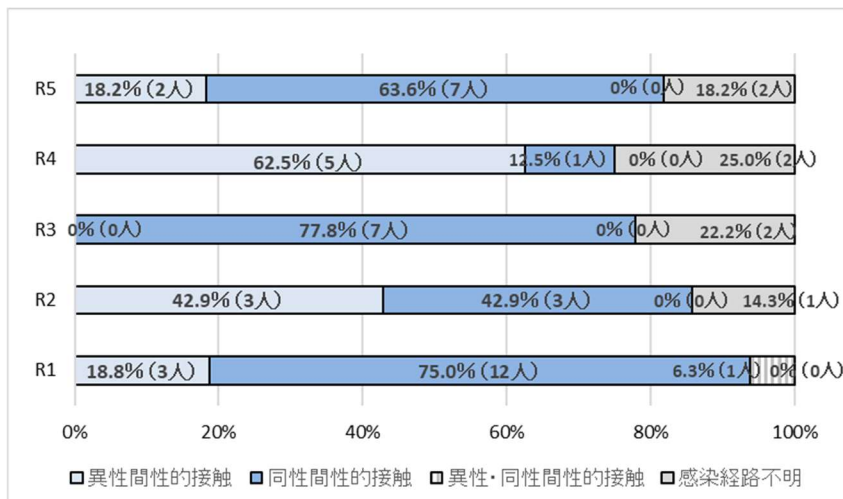


図8 仙台市の感染原因別割合の年次推移【令和元年～令和5年累計 ※R5年は速報値】



(4) 仙台市の診断時のCD4陽性Tリンパ球数の状況

・平成31年1月(2019年)の届出より、HIV感染症の早期診断の推進度合いを把握する目的で、届出事項に診断時のCD4陽性Tリンパ球数が追加されている。CD4陽性Tリンパ球数は、HIV感染症により障害を受けた患者の免疫力を反映する重要な指標となる。健常者のCD4数は500~1,000/ μ Lで、感染者において200/ μ L未満となると日和見疾患のリスクが高まる。

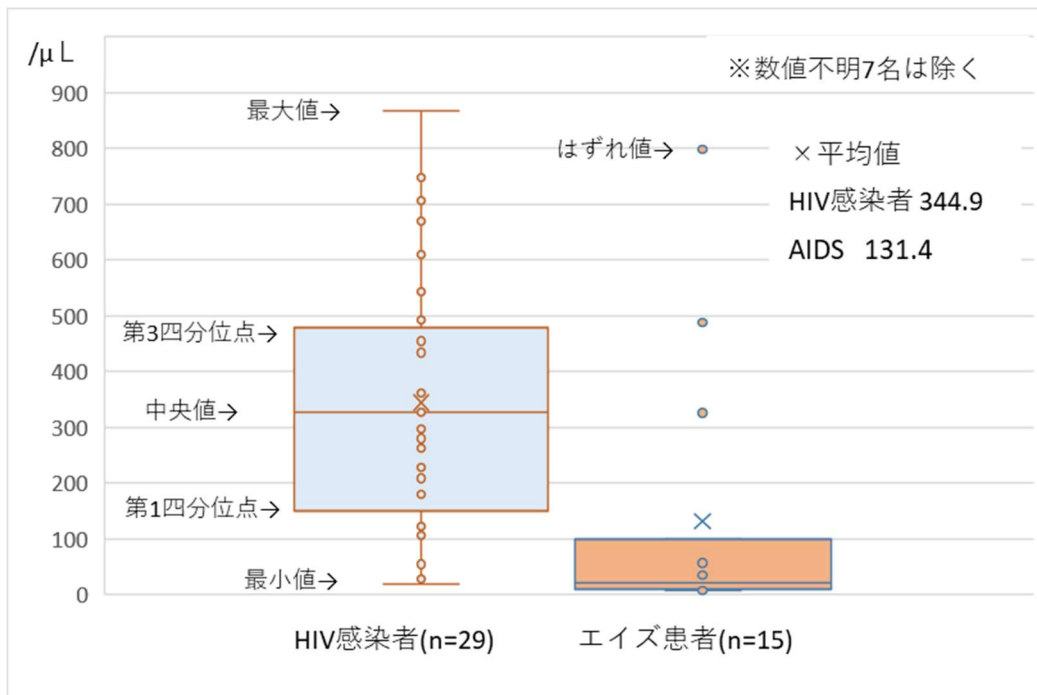
・令和5年(速報値)のHIV感染者・エイズ患者計11件の診断時のCD4陽性Tリンパ球数は、以下のとおりであった。

- ┌ HIV感染者(8件): CD4陽性Tリンパ球数 107~434/ μ L 6名、不明2名
- └ エイズ患者(3件): CD4陽性Tリンパ球数 8/ μ L 2名、不明1名

・令和元年~令和5年(過去5年)の診断時CD4数は、HIV感染者では中央値が328/ μ Lであり、第1四分位数(151/ μ L)から第3四分位数(479/ μ L)の間に15人が入っている。【図9】

・エイズ患者については、中央値が21/ μ Lであり、第1四分位数(11/ μ L)から第3四分位数(100/ μ L)の間に9人が入っている。

図9 診断時のCD4数【令和元年~令和5年 ※R5年は速報値】



2. 梅毒発生動向

○ 全国の状況（令和5年は速報値）

・平成23年以降増加傾向にあり、特に平成28年から平成30年にかけて大幅な増加がみられ、令和4年にさらに急増した。令和5年の報告数（速報値）は14,906件と前年より約1,700件増加した。【図10】

・男女別でみると、過去5年間、いずれの年も男性の報告数が女性よりも多い。【図11・図12】

・令和4年の報告を性別・年代別にみると、20代女性の報告が最も多い。男性は20代～50代に多く、女性は20代が突出して多い。【図13・図18④⑤⑥】

図10 全国の病期別梅毒報告数の推移【平成20年～令和5年 ※R5年は速報値】

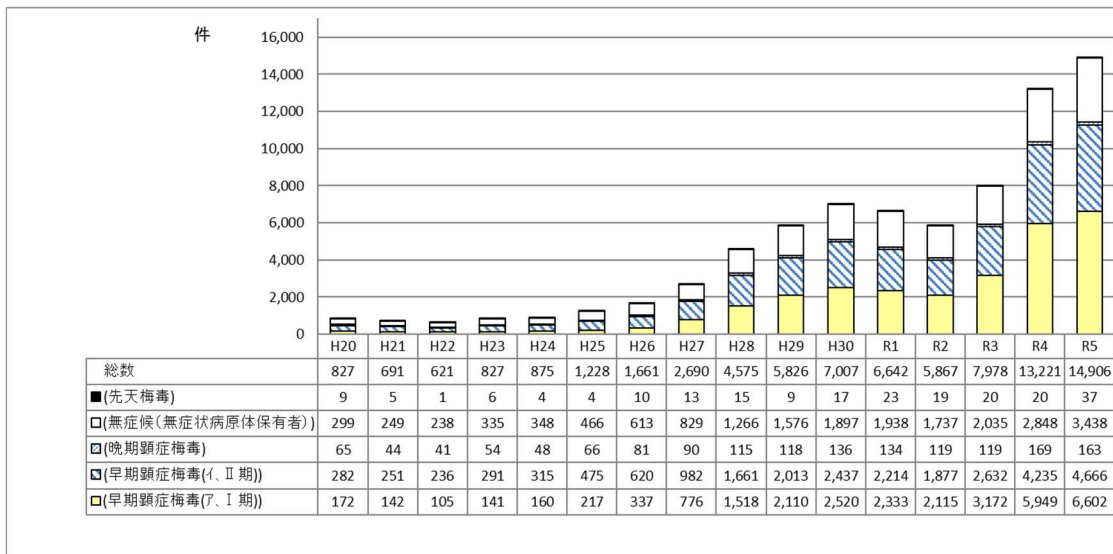
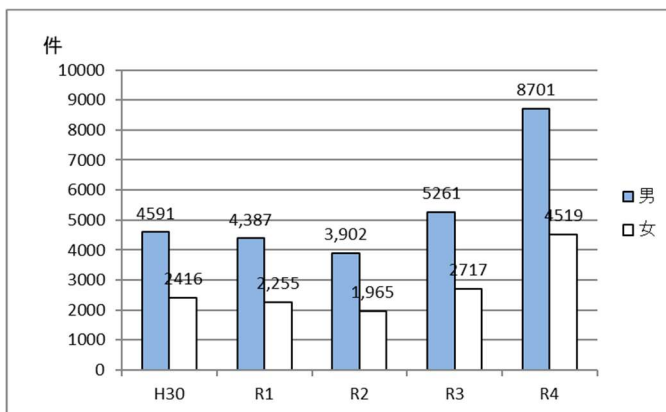


図11 全国の男女別梅毒報告数の推移【平成30年～令和4年】



※国立感染症研究所報告（令和4年）において、全数13,221件、男性8,701件、女性4,519件となっており、1件の誤差がある。

図12 全国の梅毒報告の男女比の推移【平成30年～令和4年】

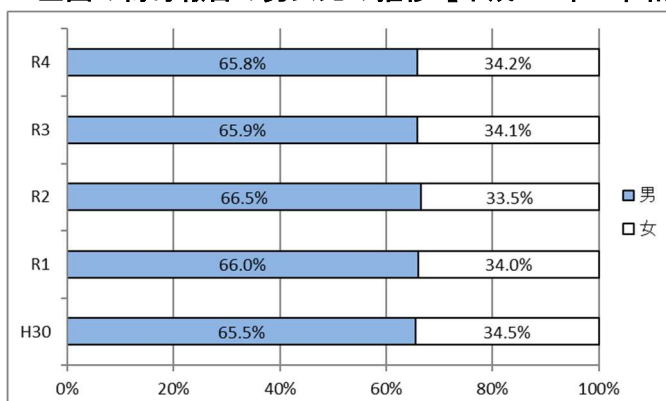
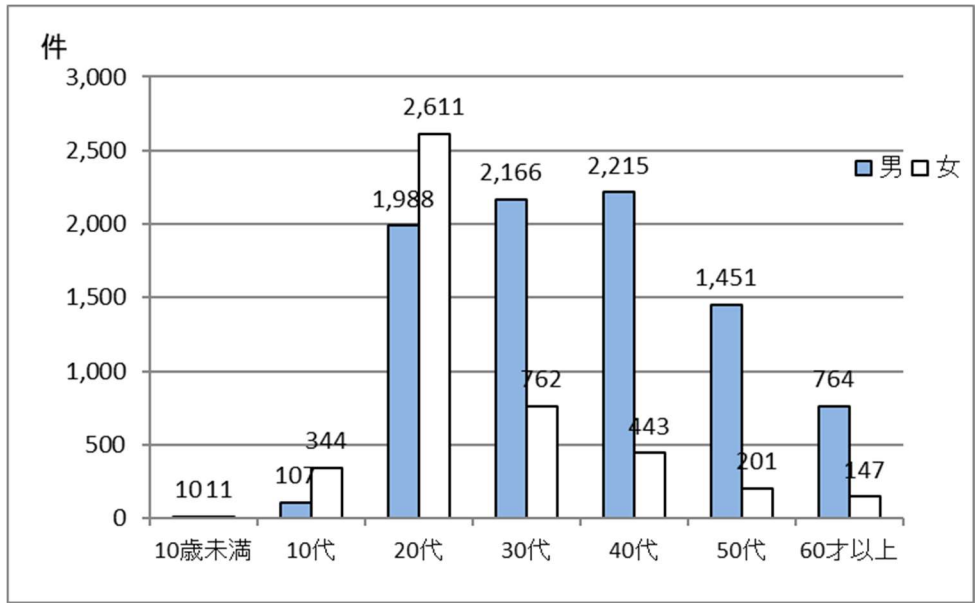


図 13 全国の年代別梅毒報告数【令和 4 年】



○ 仙台市の状況（令和 5 年は速報値）

- ・ 仙台市の梅毒報告数は、平成 25 年以降増減を繰り返しており、特に平成 29 年以降、報告数の多い状態が続いている。令和 5 年は 126 件と過去最多となった。【図 14】
- ・ 男女別にみると、過去 5 年いずれの年も男性の報告数が女性より多い。【図 15・16】
- ・ 令和 5 年の報告を性別・年代別にみると、40 代男性が最も多く、女性は 20 代に多い。また、先天梅毒の報告が 1 件あった。【図 17・図 18①②③】

図 14 仙台市の病期別梅毒報告数の推移【平成 20 年～令和 5 年 ※R5 年は速報値】

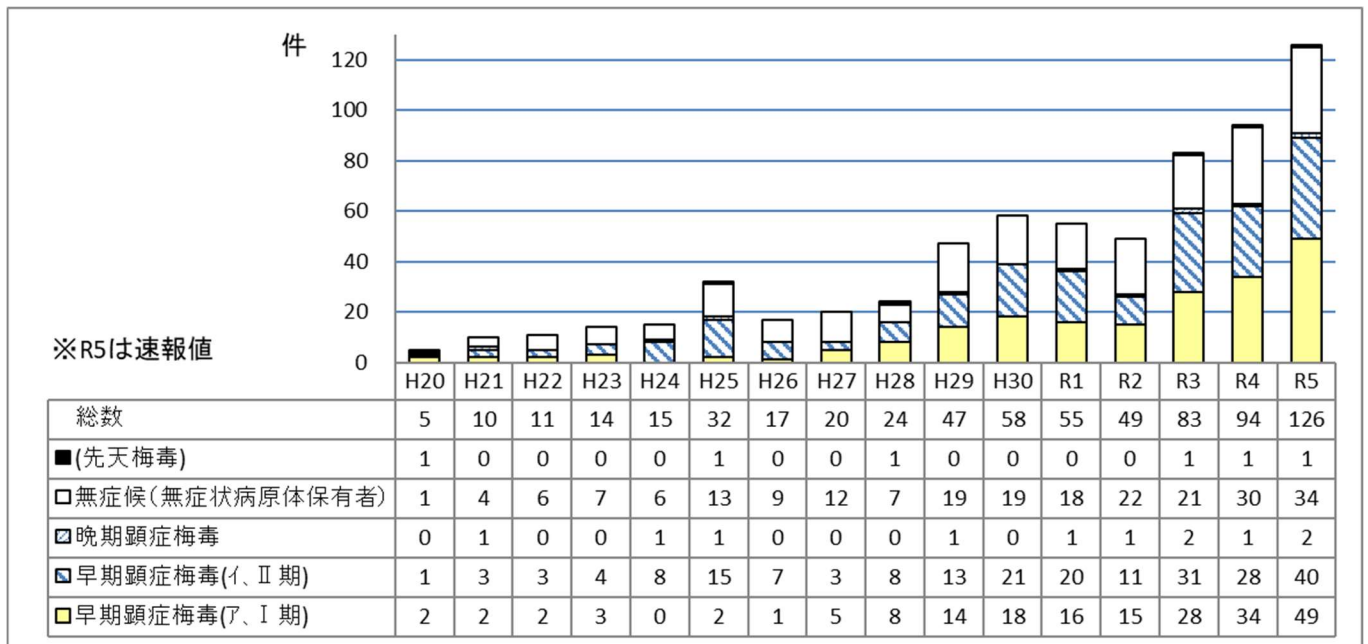


図 15 仙台市の男女別梅毒報告数の推移【令和元年～令和 5 年 ※R5 年は速報値】

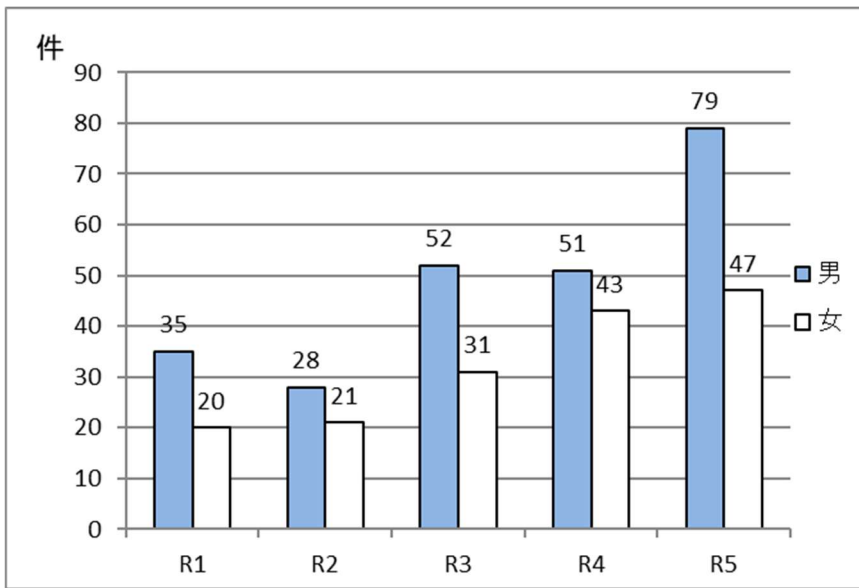


図 16 仙台市の梅毒報告の男女比の推移【令和元年～令和 5 年 ※R5 年は速報値】

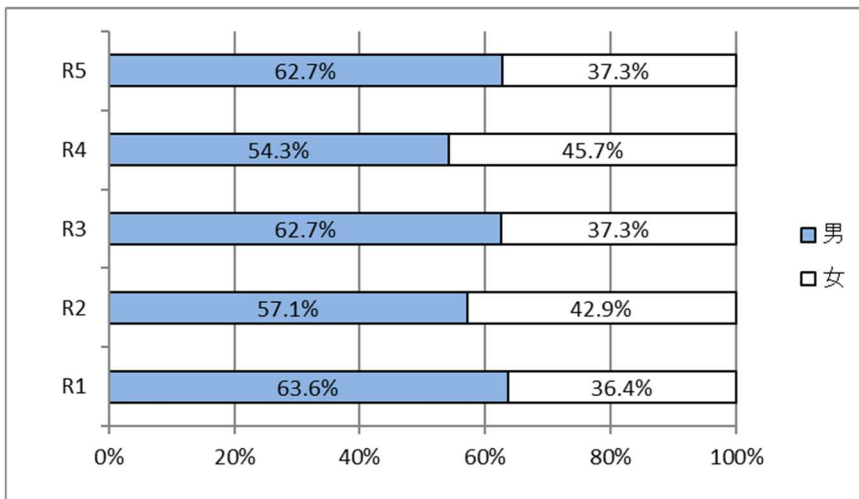


図 17 仙台市の年代別梅毒報告数【令和 5 年 ※速報値】

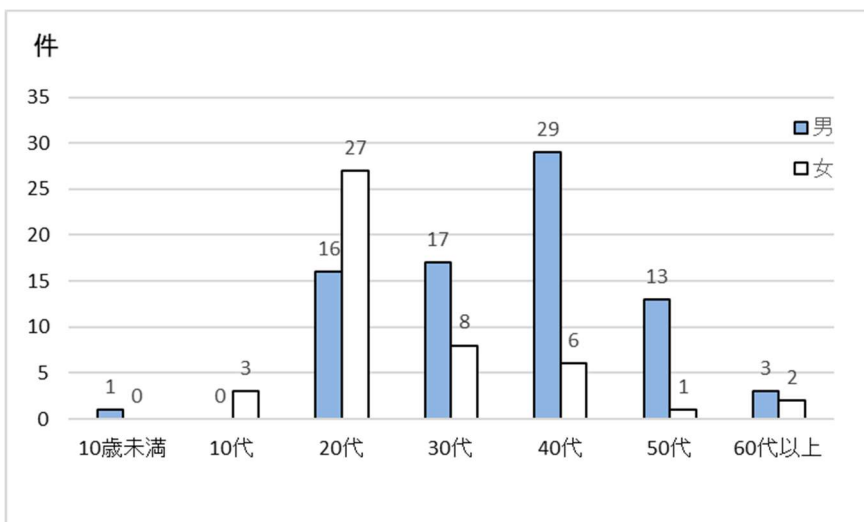
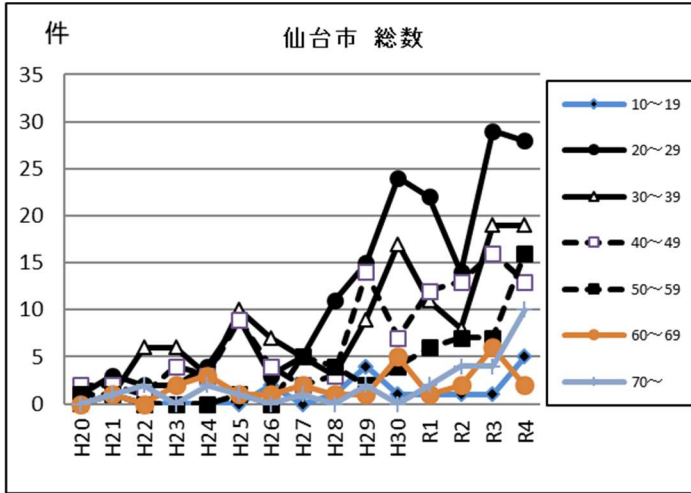
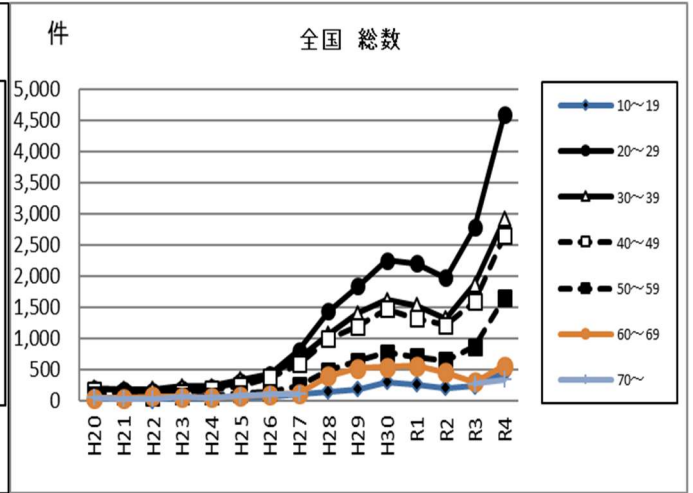


図 18 仙台市・全国の性別・年代別梅毒報告数の推移【平成 20 年～令和 4 年 10 代以上】

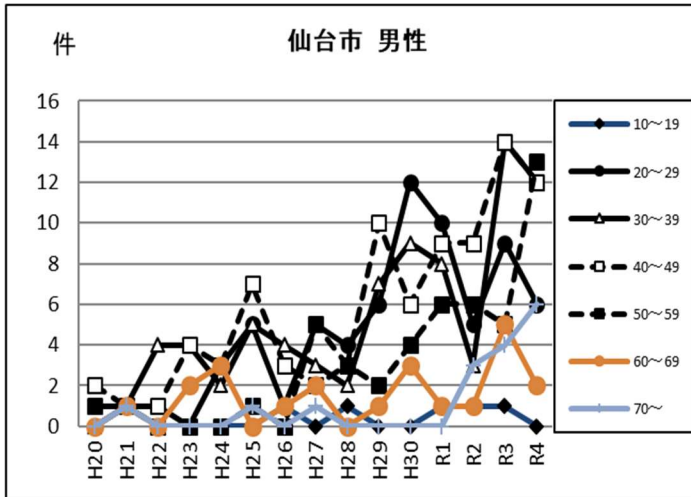
①



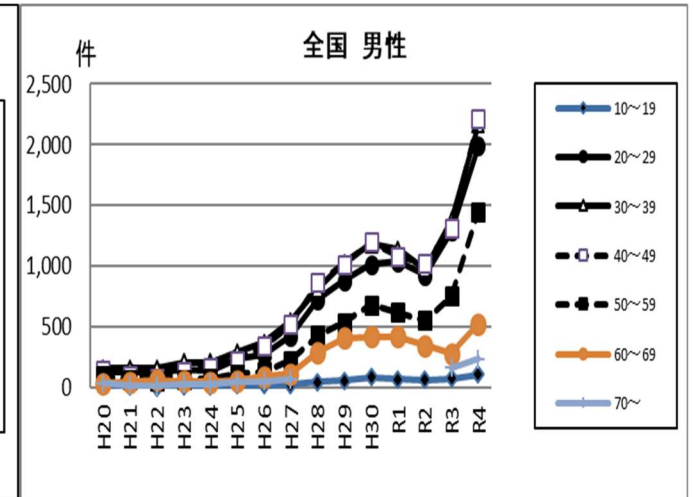
④



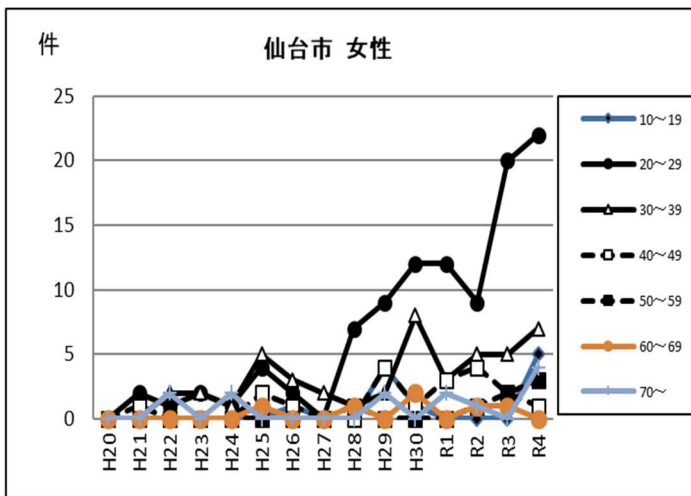
②



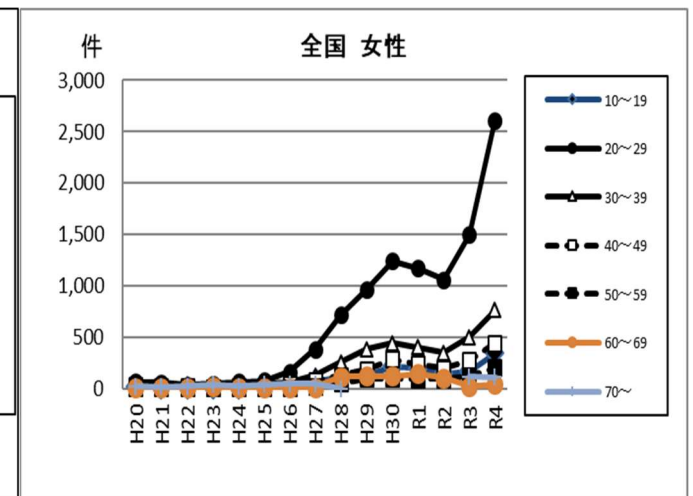
⑤



③



⑥



○ 梅毒発生届に追加となった事項のまとめ（仙台市の状況）【表 1】

- ・平成 31 年 1 月より、医療機関からの梅毒届出事項に以下の項目が追加された。
 - ①性風俗産業の従事歴の有無（直近 6 か月以内） ②性風俗産業の利用歴の有無（直近 6 か月以内） ③口腔咽頭病変の有無 ④妊娠の有無 ⑤梅毒の治療歴の有無 ⑥HIV 感染症の合併の有無
- ・仙台市の令和 5 年の梅毒報告数 126 名（男性 79 名、女性 47 名）の内訳は表 1 のとおりであった。
- ・仙台市の届出のうち、直近 6 か月以内に性風俗産業の従事歴・利用歴があると確認されている者の割合は、令和 5 年は 34.1%（R4 30.9%）である。【表 2】

表 1 仙台市の梅毒患者の状況【令和 5 年届出分 ※令和 6 年 1 月 11 日抽出時点】

①性風俗産業の従事歴（直近 6 か月以内）

区分	男性 79 名中	女性 47 名中	合計 126 名（割合）
あり	0	18	18（14.3%）
なし	41	11	52（41.3%）
不明・記載なし	38	18	56（44.4%）

②性風俗産業の利用歴（直近 6 か月以内）

区分	男性 79 名中	女性 47 名中	合計 126 名（割合）
あり	25	0	25（19.8%）
なし	22	21	43（34.1%）
不明・記載なし	32	26	58（46.0%）

③口腔咽頭病変

区分	男性 79 名中	女性 47 名中	合計 126 名（割合）
あり	0	0	0（0.0%）
なし	79	47	126（100.0%）

④妊娠

区分	女性 47 名中（割合）
あり	6※（12.8%）
なし	31（66.0%）
不明・記載なし	10（21.3%）

※妊娠 5 週 1 名、6 週 1 名、8 週 1 名、10 週 2 名、28 週 1 名

⑤梅毒の治療歴

区分	男性 79 名中	女性 47 名中	合計 126 名（割合）
あり	6	4	10※（7.9%）
なし	53	30	83（65.9%）
不明・記載なし	20	13	33（26.2%）

※治療時期：1 年より前 9 名、1 年以内 1 名

⑥HIV 感染症の合併

区分	男性 79 名中	女性 47 名中	合計 126 名 (割合)
あり	8	0	8 (6.3%)
なし	24	21	45 (35.7%)
不明・記載なし	47	26	73 (57.9%)

※端数処理の関係上、割合の合計が 100%とならない場合がある。

表 2 性風俗産業の従事歴・利用歴ありと確認されている者の割合

【仙台市の令和元年～令和 5 年の状況 ※R5 年は速報値】

区分	全梅毒報告数 (件)	性風俗産業の従事歴 ・利用歴あり(件) (直近 6 か月以内・実数)	性風俗産業の従事歴 ・利用歴ありの者の割合 (直近 6 か月以内)
平成 31/令和元年	55	25	45.5%
令和 2 年	49	20	40.8%
令和 3 年	83	33	39.8%
令和 4 年	94	29	30.9%
令和 5 年	126	43	34.1%

3. その他の性感染症の発生動向

・性感染症4疾患の定点あたり報告数については、仙台市の報告数は全国の報告数に比較して多い傾向にある。【図19】

・令和4年の仙台市と全国の4疾患の定点あたり報告数を年代別・性別にみると、性器クラミジア感染症は40代男性、20代女性の報告が特に全国と比べ多い。性器ヘルペスウイルス感染症は、男性は20代前半・30代前半・40代前半、女性は50代前半を除く幅広い年代で全国よりも報告数が多い。淋菌は20代から30代の女性が特に全国よりも報告数が多い。尖圭コンジローマは、男性は20代から40代の報告数が多く、女性は10代後半・20代が特に全国に比べ報告数が多い。【図20】

※ 性感染症4疾患は定点報告

※ 令和4年の性感染症4疾患の定点医療機関として、産婦人科5か所、泌尿器科3か所に報告を依頼している。

図19 全国・仙台市性感染症定点あたり報告数の年次推移【平成30年～令和4年】

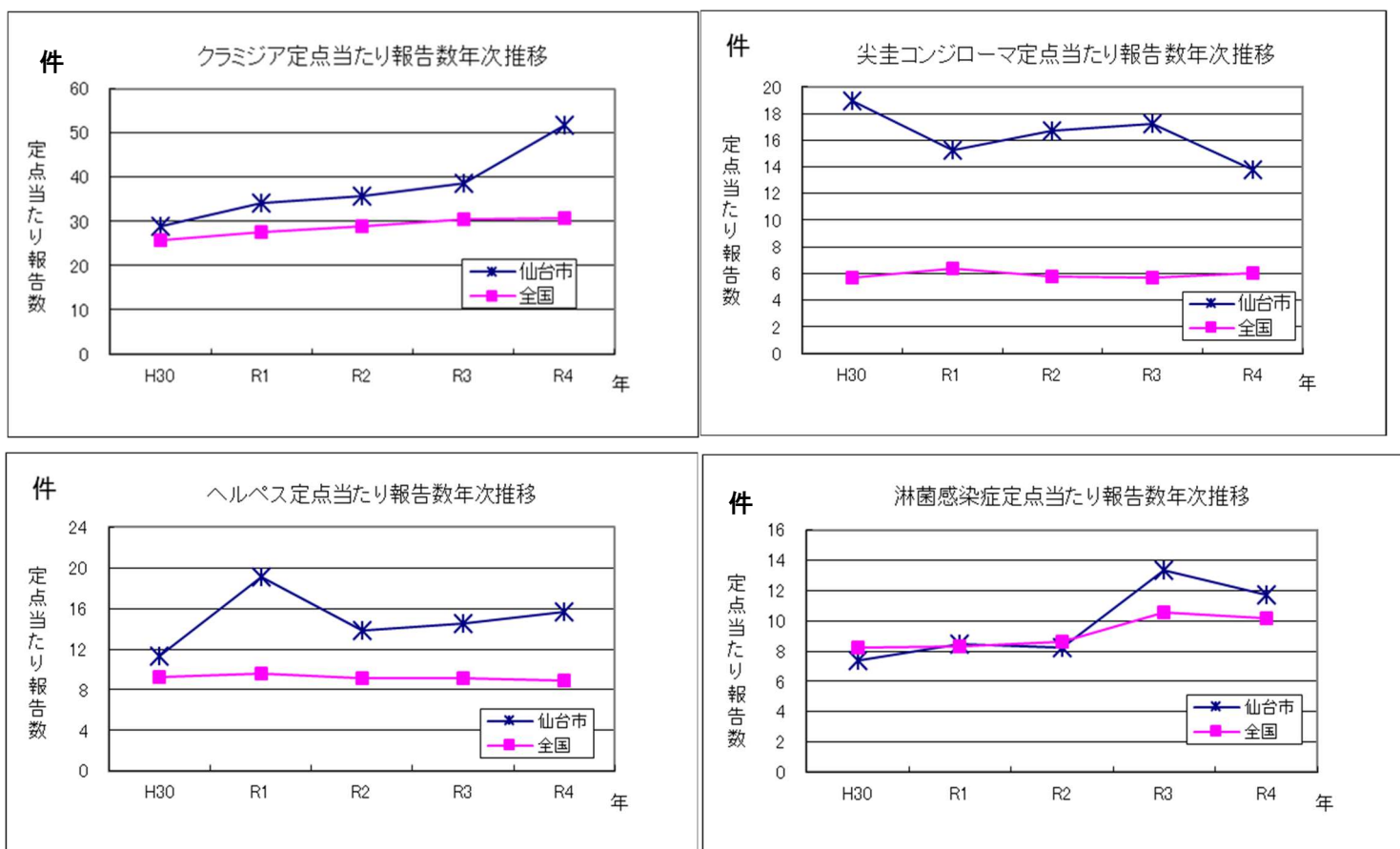
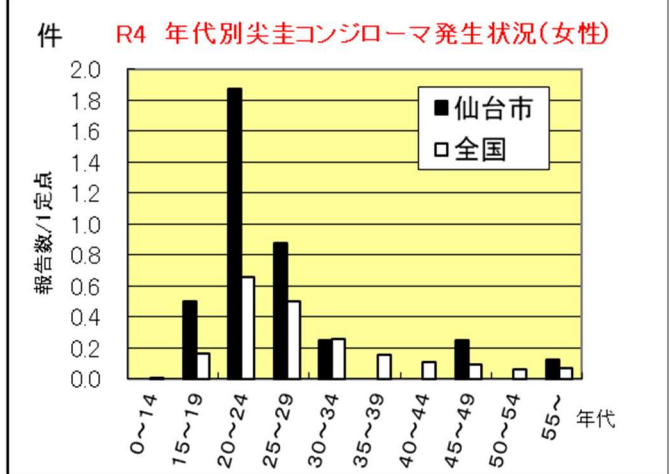
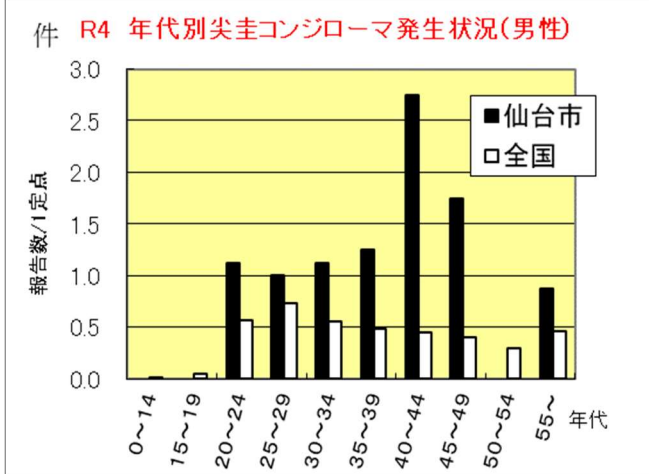
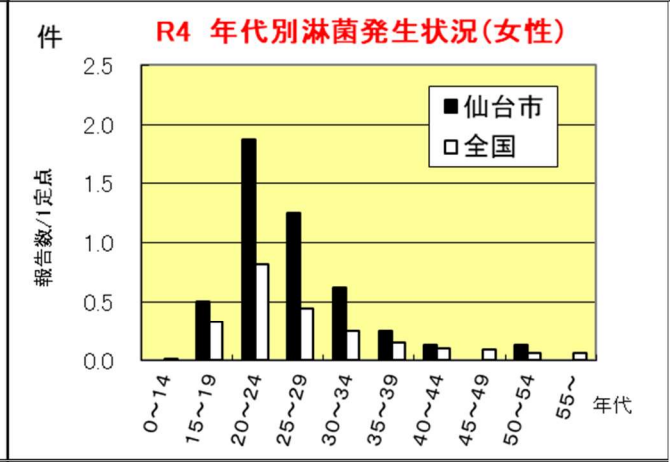
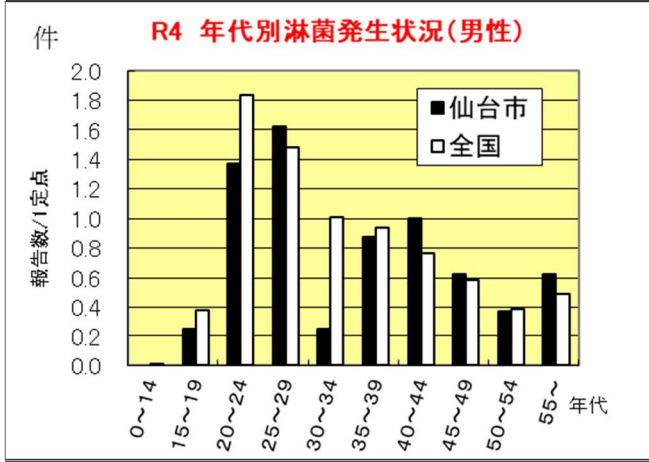
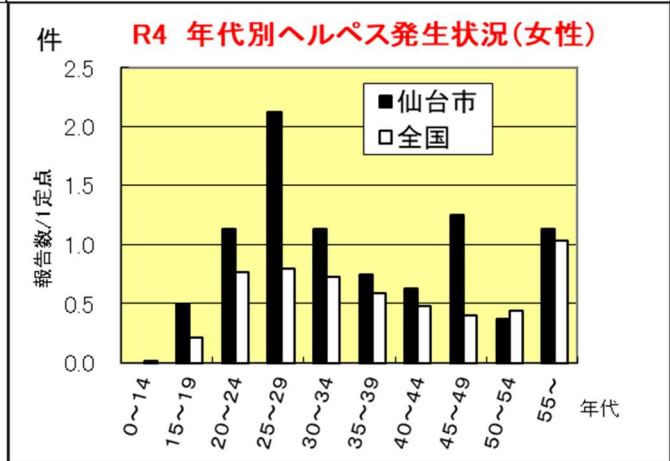
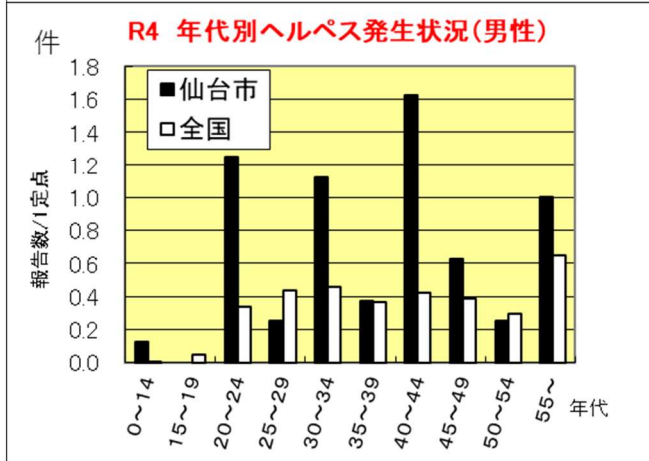
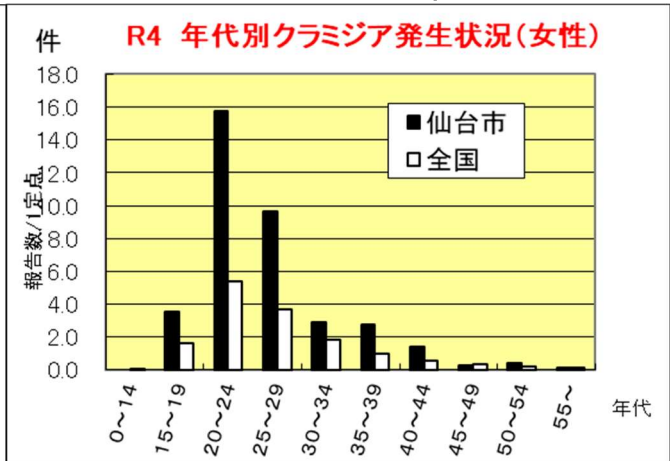
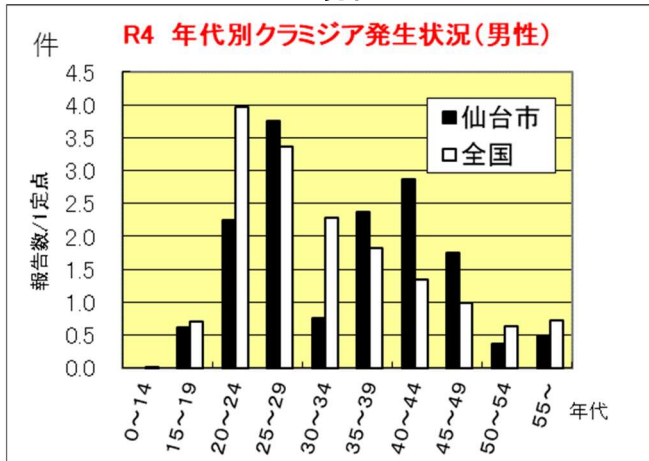


図 20 令和 4 年 年代別・性別 性感染症発生状況（全国・仙台市との比較）

< 男性 >

< 女性 >



※検査状況は年度で集計しております。
(R5年度は12月末現在)

4. 仙台市保健所のHIV・性感染症検査の実施状況

(1) HIV検査

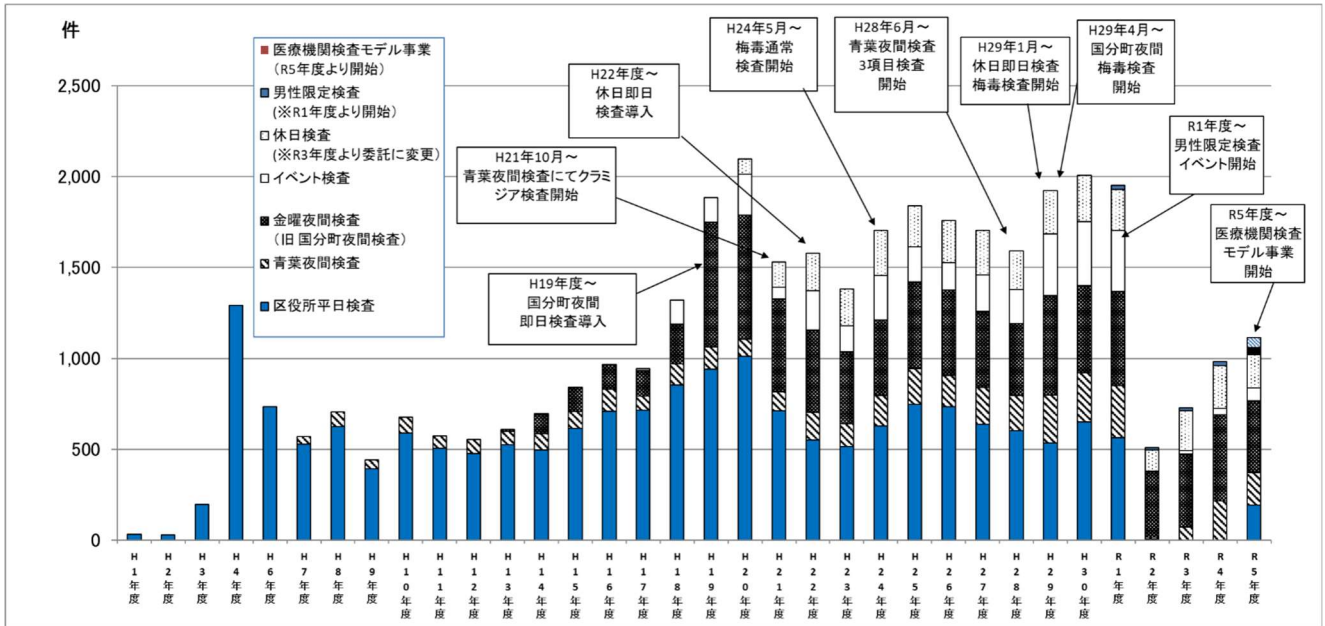
- ・令和5年度は、新型コロナウイルス感染症対応のため休止していた、各区役所の平日日中検査を一部再開した。
- ・令和5年度12月末現在の検査数は1,113件である。(R4同時期比+130件)【表3】
- ・令和4年度は2名、令和5年度は2名の新規陽性者が判明している。

表3 仙台市保健所のHIV検査件数【平成30年度～令和5年度 ※R5年度は12月末現在】

年度		H30年度	H31/R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度 12月末時点	
検査数(件)		2,006	1,951	510	727	983	1,113	
内 訳	① 区役所平日	件数 (1回平均)	650 (4.6)	563 (4.1)	7 (1.8)	休止中	休止中	192 (6.4)
		割合(%)	32.4	28.9	1.4			17.3
		陽性件数	2	1	0			0
	② 青葉区役所 夜間	件数 (1回平均)	271 (22.6)	287 (23.9)	9 (9)	71 (14.2)	217 (18.1)	178 (19.8)
		割合(%)	13.5	14.7	1.8	9.8	22.1	16.0
		陽性件数	0	1	0	0	0	1
	③ 休日 (H22～即日、R3.4月 より健康相談所 興 生館に会場変更)	件数 (1回平均)	254 (25.4)	225 (25.0)	117 (13.0)	219 (18.3)	235 (19.6)	183 (20.3)
		割合(%)	12.7	11.5	22.9	30.1	23.9	16.4
		陽性件数	0	0	1	1	0	1
	④ イベント(即 日)	件数 (1回平均)	352 (176)	337 (168.5)	0	18 (18)	38 (38)	72 (36)
		割合(%)	17.5	17.3	0	2.5	3.9	6.5
		陽性件数	0	0	0	1	1	0
	⑤ アエル夜間 (H19～即日) (旧 国分町夜間 H31.1月～アエルに 会場変更)	件数 (1回平均)	479 (20.8)	518 (22.5)	364 (15.8)	404 (18.4)	471 (20.5)	396 (23.3)
		割合(%)	23.9	26.6	71.4	55.6	47.9	35.6
		陽性件数	1	1	0	0	1	0
⑥ 男性限定検査 (即日、R1～開始)	件数 (1回平均)	/	21 (21)	13 (13)	15 (15)	22 (22)	40 (40)	
	割合(%)		1.0	2.5	2.0	2.2	3.6	
	陽性件数		0	0	0	0	0	
⑦ 医療機関検査 モデル事業 (R5.9月 第1弾)	件数 (1回平均)	/	/	/	/	/	52※ (52)	
	割合(%)						4.7	
	陽性件数						0	
年度別 陽性者数合計(人)		3	3	1	2	2	2	
年度別 陽性率(%)		0.15	0.15	0.26	0.28	0.20	0.18	

※⑦については、9月に実施した第1弾のみ計上

図 21 仙台市保健所のHIV検査件数の推移(※R5年度は12月末現在)



○ 受検者の傾向

- ・令和4年度の受検者のうち市内在住者が約8割であった。【図22】
- ・令和4年度の受検者の半分近くが初めての受検であった。【図23】
- ・令和4年度の受検者は約7割が男性、約3割が女性だった。【図24】
- ・令和4年度の年代別では20代が最も多く、ついで30代が多かった。【図25】
- ・過去5年間の受検理由としては、「性行為による心配」の割合が最も多い。【表4】
- ・MSM（男性と性的接触のある男性）の受検割合は、東北HIVコミュニケーションズとのMSM向けの市民協働事業を開始した平成26年度以降、割合は高めで推移しており、令和4年度は16.9%だった。【表5】
- ・検査を知るきっかけは過去5年間いずれの年もホームページという回答が最も多く、令和4年度も同様だった。【図26・27】

図 22 HIV検査受検者の居住地別割合【令和4年度】

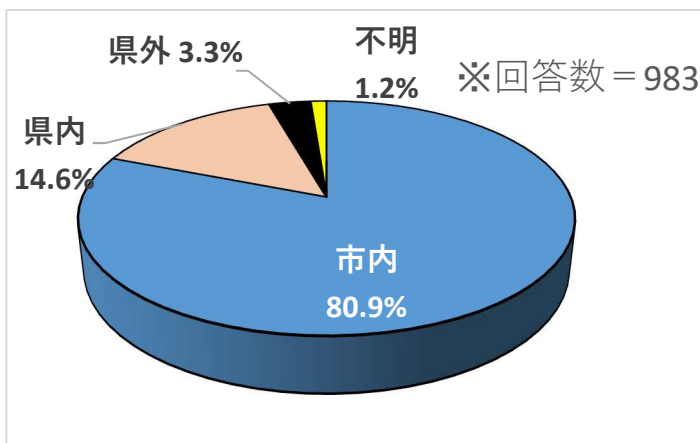


図 23 仙台市の HIV 検査受検者の受検経験別比率【令和 4 年度】

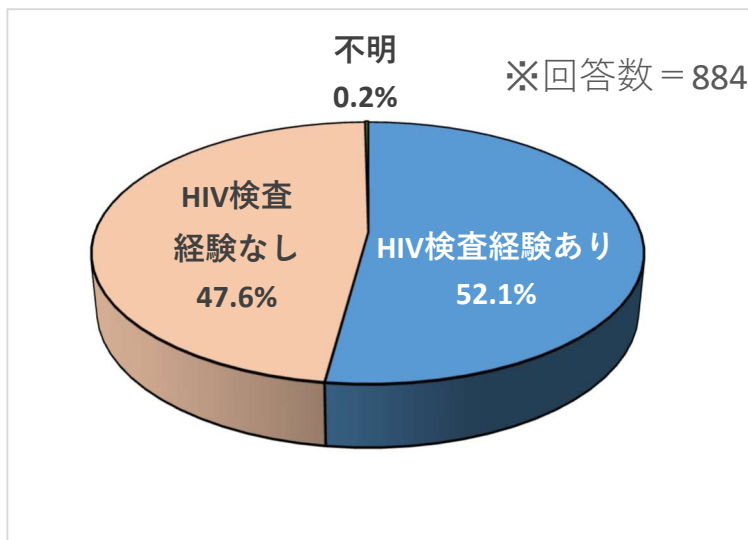


図 24 仙台市の HIV 検査受検者の男女別比率【令和 4 年度】

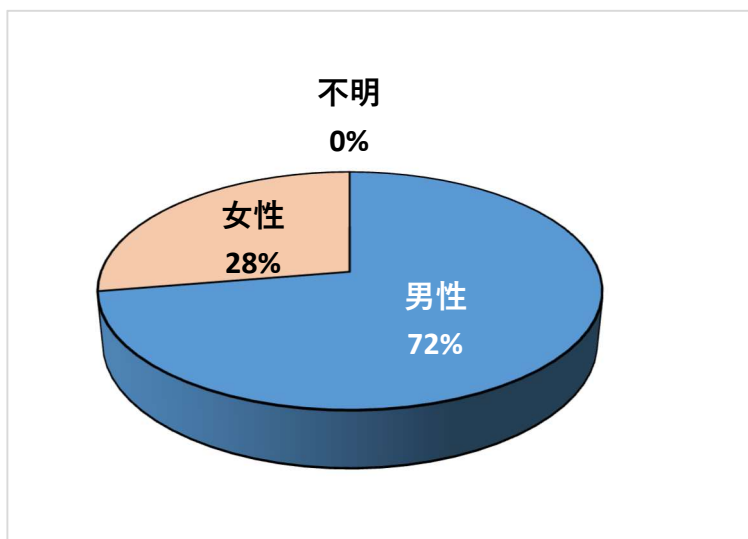


図 25 仙台市の HIV 検査受検者の性別・年代【令和 4 年度】

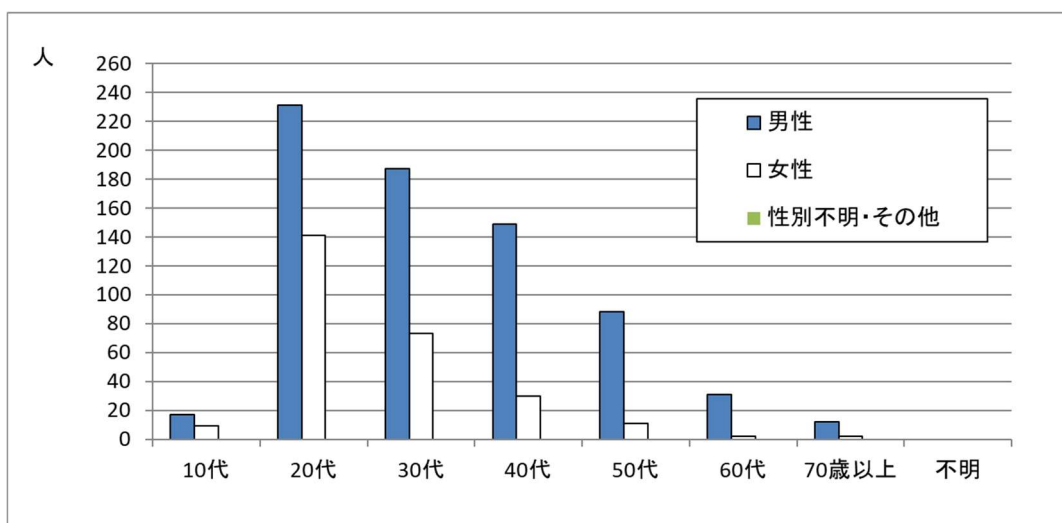


表 4 仙台市の HIV 検査の受検理由の割合（複数回答） 【平成 30 年度～令和 4 年度】

（受検理由／全受検者数） （％）

	H30 年度	H31/R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
性行為による心配	88.0	86.1	90.4	91.7	90.3
血液感染による心配	4.8	3.6	3.7	5.2	2.3
気になる症状がある	15.6	12.0	12.0	10.7	12.4
検査証明のため	0.8	—	—	—	—
その他	10.4	8.6	9.0	11.8	10.1

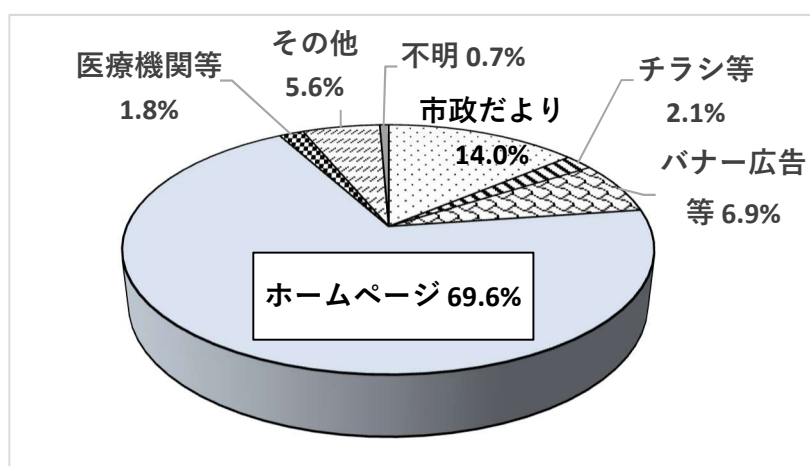
※複数回答のため、受検理由別割合の合計は 100 を超える

表 5 仙台市の MSM の受検状況【平成 26 年度～令和 4 年度】※MSM=男性と性的接触のある男性

	MSM 受検者数(件)	受検者合計数(件)	受検者に占める MSM 割合
H26 年度	93	1,759	5.3%
H27 年度	228	1,703	13.4%
H28 年度	191	1,590	12.0%
H29 年度	261	1,923	13.6%
H30 年度	287	2,006	14.3%
H31/R1 年度	279	1,951	14.3%
R2 年度	85	510	16.7%
R3 年度	127	727	17.5%
R4 年度	166	983	16.9%

図 26 仙台市の HIV 検査を知るきっかけとなった媒体（複数回答）【令和 4 年度】

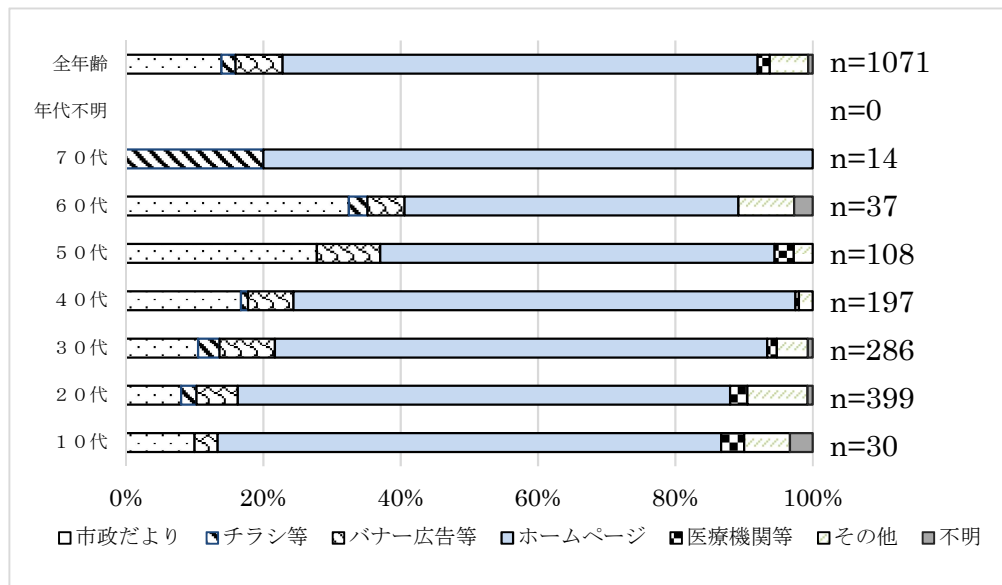
（媒体／回答数）



※当てはまるものすべてを選択する複数回答である

※ホームページには、仙台市公式 HP、仙台 HIV ネット、HIV 検査相談マップ、その他ホームページを計上している

図 27 仙台市の HIV 検査を知るきっかけとなった媒体別割合/年代別（複数回答）【令和 4 年度】
（媒体別／各年代回答数）



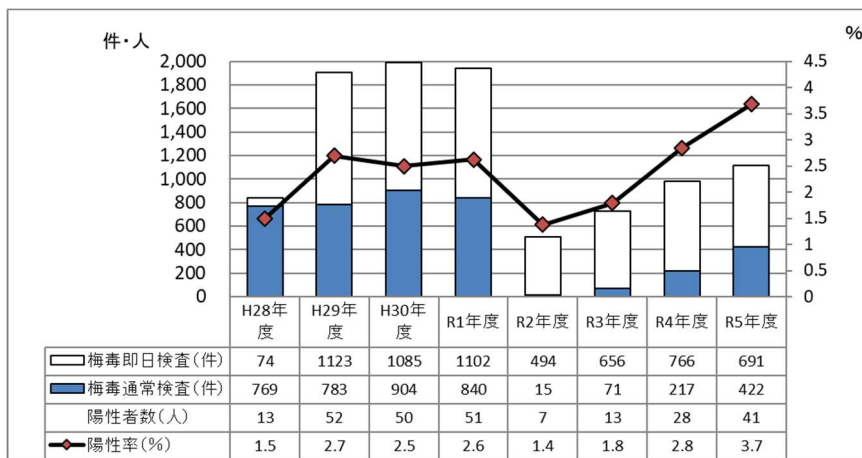
※当てはまるものすべてを選択する複数回答である

※ホームページには、仙台市公式 HP、仙台 HIV ネット、HIV 検査相談マップ、その他ホームページを計上している

(2) 梅毒検査

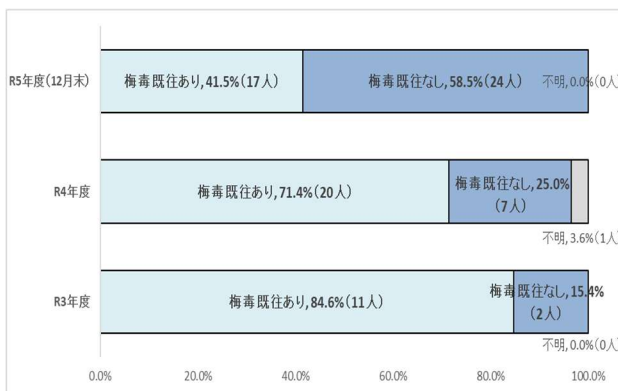
- ・梅毒検査を段階的に拡充し、平成 29 年度より全検査会場で受検が可能となった。HIV との同時受検を必須とし、梅毒単独の受検は認めていない。
- ・令和 2 年度より新型コロナウイルス感染症対応に伴い検査体制を縮小しており、令和 2 年度の検査件数は 509 件（即日検査 494 件、通常検査 15 件）、令和 3 年度は 727 件（即日検査 656 件、通常検査 71 件）、令和 4 年度は 983 件（即日検査 766 件、通常検査 217 件）であった。
- ・令和 5 年度 12 月末現在の検査件数は 1,113 件（即日検査 691 件、通常検査 422 件）である。
- ・梅毒の陽性率は平成 29 年度より上昇し、検査体制を縮小した令和 2 年度に一度低下したが、その後上昇傾向にあり、令和 5 年度は直近 8 か年で最も高い陽性率となった。【図 28】
- ・令和 3 年度からの過去 3 年間で見ると、既往歴のない受検者の陽性判明の割合が増加している。

図 28 ①仙台市保健所の梅毒検査件数【平成 28 年度～令和 5 年度 ※R5 年度は 12 月末現在】



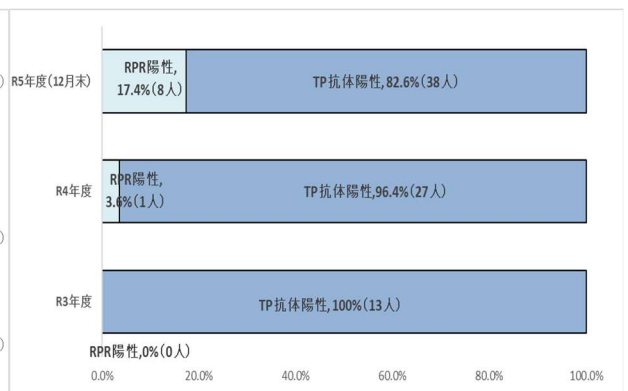
②梅毒陽性者の既往有無の割合

【令和 3 年度～令和 5 年度 ※R5 年度は 12 月末現在】



③梅毒陽性者の検査項目別の陽性割合

【令和 3 年度～令和 5 年度 ※R5 年度は 12 月末現在】



※梅毒検査の拡充の経過

- ・H24 年 5 月～ 平日区役所検査で開始
- ・H28 年 5 月～ 青葉区役所夜間検査で開始
- ・H29 年 1 月～ 休日検査（即日）で開始
- ・H29 年 4 月～ 国分町夜間検査（即日）で開始
- ・H29 年 6 月～ イベント検査(即日)で開始、全検査会場で受検が可能となる

(3) クラミジア検査

・仙台市のクラミジア検査は、平成 21 年 10 月より青葉区役所夜間検査で実施しており、青葉区役所夜間検査では HIV・梅毒と併せて最大 3 項目の同時検査が可能である。

・令和 2 年度は 4 月のみ検査を行い、以後は新型コロナウイルス感染症対応のため検査を休止してきたが、令和 3 年 11 月より再開している。【図 29・表 6】

・令和 4 年度は検査件数 203 件、うち陽性は 15 件（陽性率約 7.4%）であった。令和 5 年度は検査件数 175 件、うち陽性は 8 件（陽性率約 4.6%）である。【表 6】

図 29 青葉区役所夜間 HIV 検査・クラミジア検査受検者数の推移
【平成 20 年度～令和 5 年度 ※R5 年度は 12 月末現在】

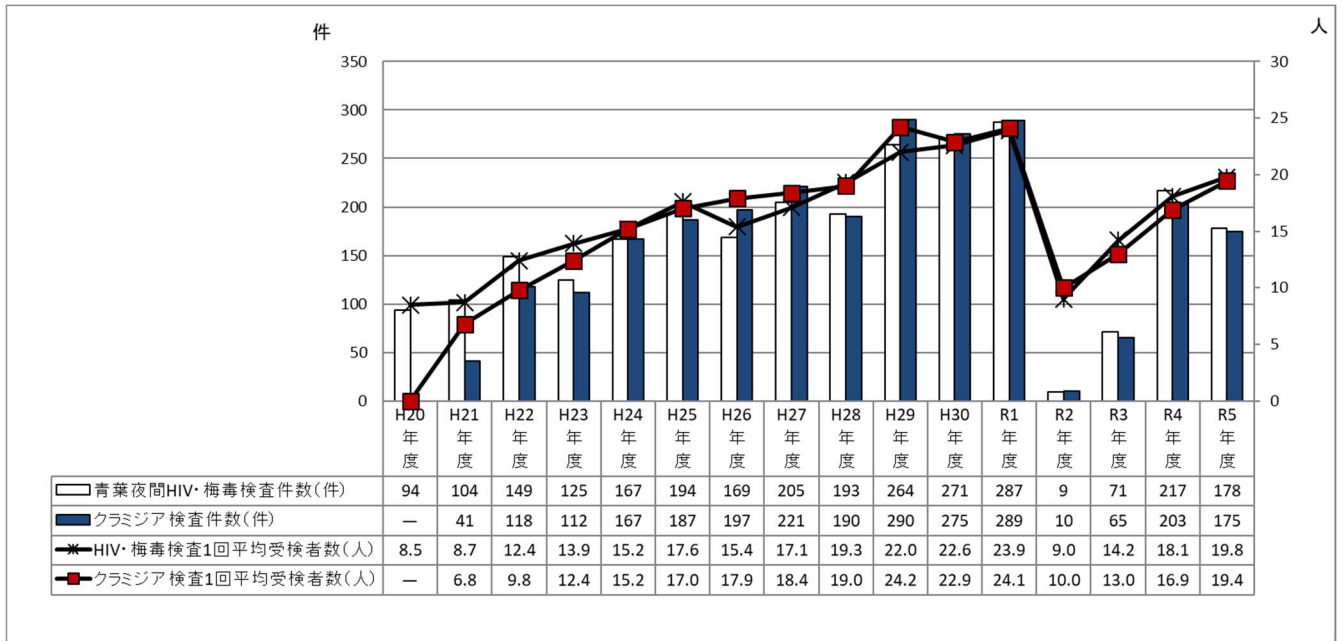


表 6 仙台市のクラミジア検査件数と陽性率の推移

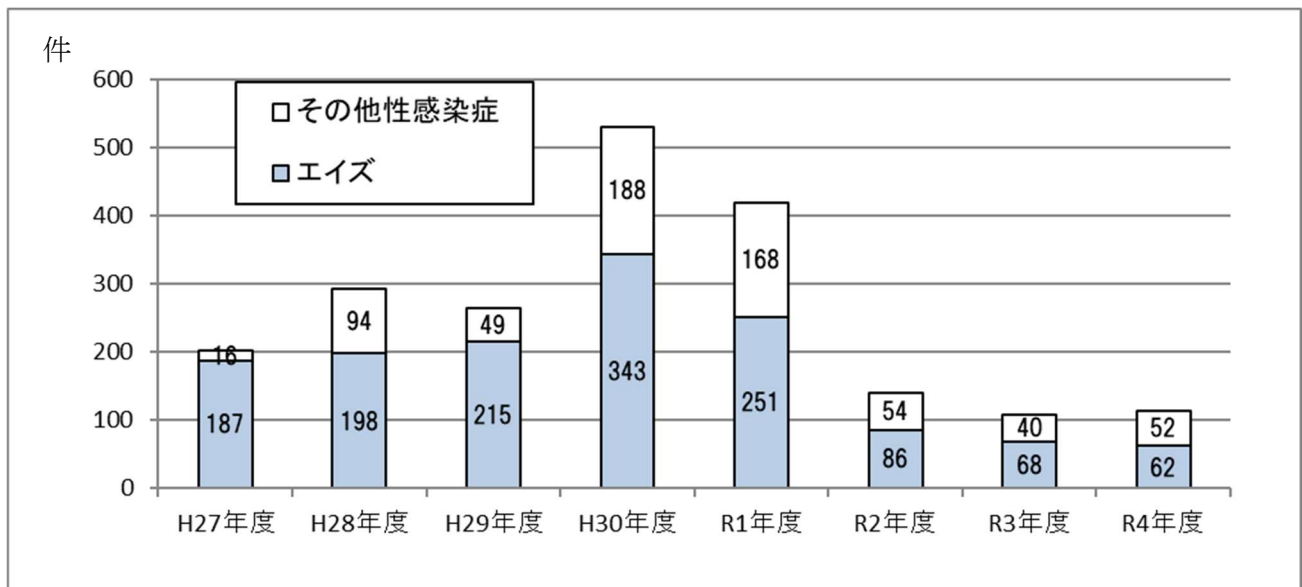
【平成 28 年度～令和 5 年度 ※R5 年度は 12 月末現在】

	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度 (12 月末現在)
クラミジア検査件数(件)	190	290	275	289	10	65	203	175
クラミジア陽性者数(人)	7	20	17	13	2	7	15	8
クラミジア陽性率(%)	3.7	6.9	6.2	4.5	20.0	10.8	7.4	4.6

5. 仙台市のエイズ・性感染症相談

・エイズ・性感染症についての相談を電話・来所にて受け付けている。平成30年度及び令和元年度はHIV/エイズ以外の性感染症に係る相談が増加しており、特に梅毒に関する相談が増加した。検査体制縮小により令和2年度以降、来所相談・電話相談ともに大幅に減少している。【図30】

図30 仙台市の相談数の推移【平成27年度～令和4年度】



6. 仙台市のHIVによる免疫機能障害による身体障害者手帳交付状況

・令和4年度末現在、仙台市でHIVによる免疫機能障害による身体障害者手帳を所持されている方は164名である。【図31】

・令和4年度末現在、手帳交付を受けている60代以上の方は18名である（令和3年度末比+1名）。【図32】

図31 HIVによる免疫機能障害による身体障害者手帳所持者数の年次推移【平成17年度～令和4年度】

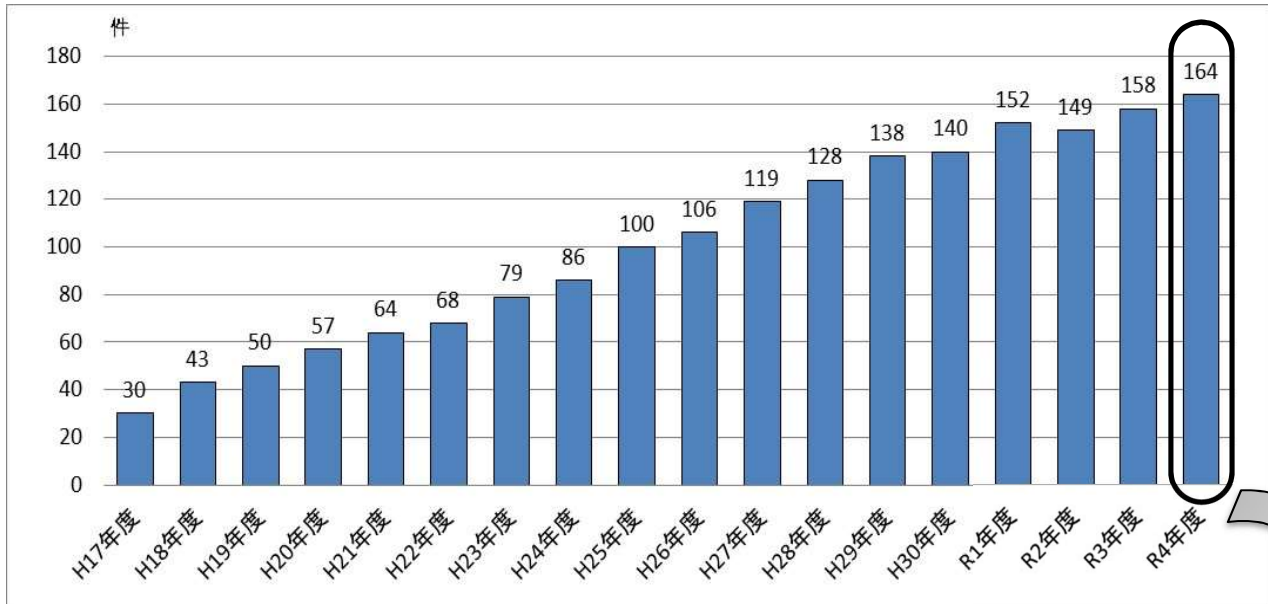
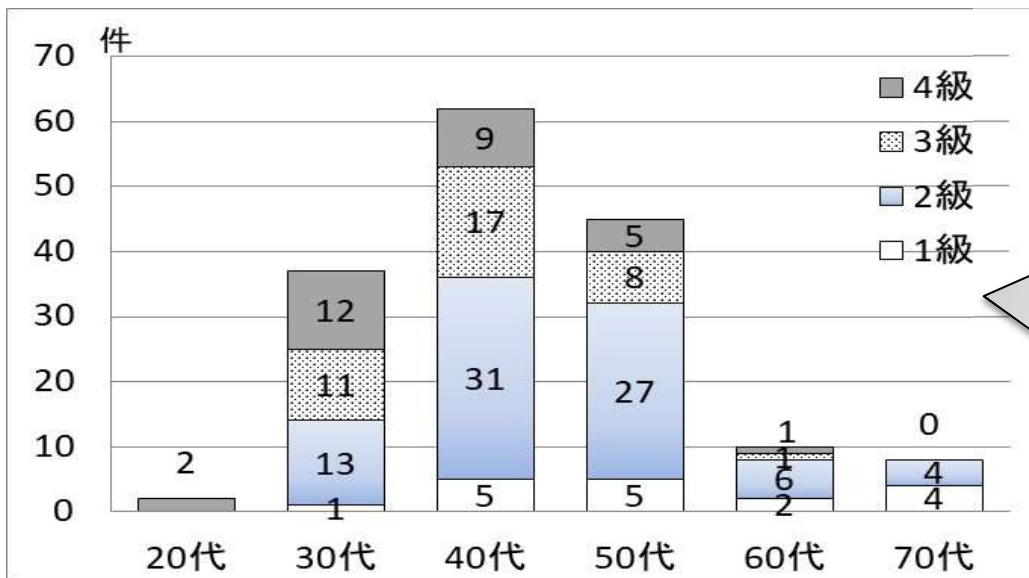


図32 等級・年代別 HIVによる免疫機能障害による身体障害者手帳所持者数（令和4年度末現在）



※ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害 障害程度等級表

1級	ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害により日常生活がほとんど不可能なもの
2級	ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害により日常生活が極度に制限されるもの
3級	ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害により日常生活が著しく制限されるもの（社会での日常生活活動が著しく制限されるものを除く。）
4級	ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害により社会での日常生活活動が著しく制限されるもの